

## 第1章 食をめぐる現状

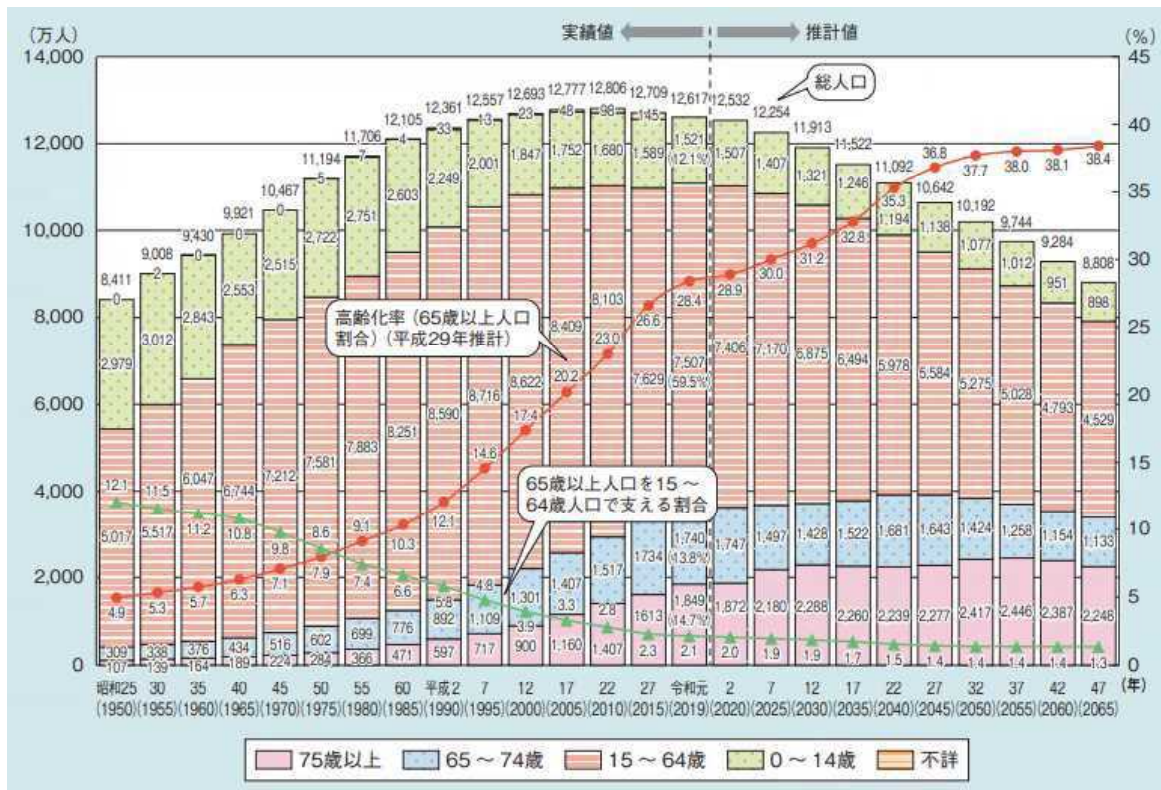
### 1 社会経済状況

少子高齢化やソーシャルメディア<sup>\*</sup>の普及が進んでおり、新しい生活様式に応じた食育の推進も求められます。

#### (1) 人口構成

令和元年10月1日現在、日本の総人口に占める割合（高齢化率）は28.4%で、令和47（2065）年には、約2.6人に1人が65歳以上、約3.9人に1人が75歳以上になると推計されています。

図1 高齢化の推移と将来推計（全国）



\*内閣府「令和2年版高齢社会白書」

令和元年の大分県の高齢化率は32.9%となっており、全国平均の28.4%より高くなっています。今後、高齢化率はすべての都道府県で上昇し、大分県では令和27年に39.3%に達すると見込まれています。

表2 高齢化率（全国及び大分県）

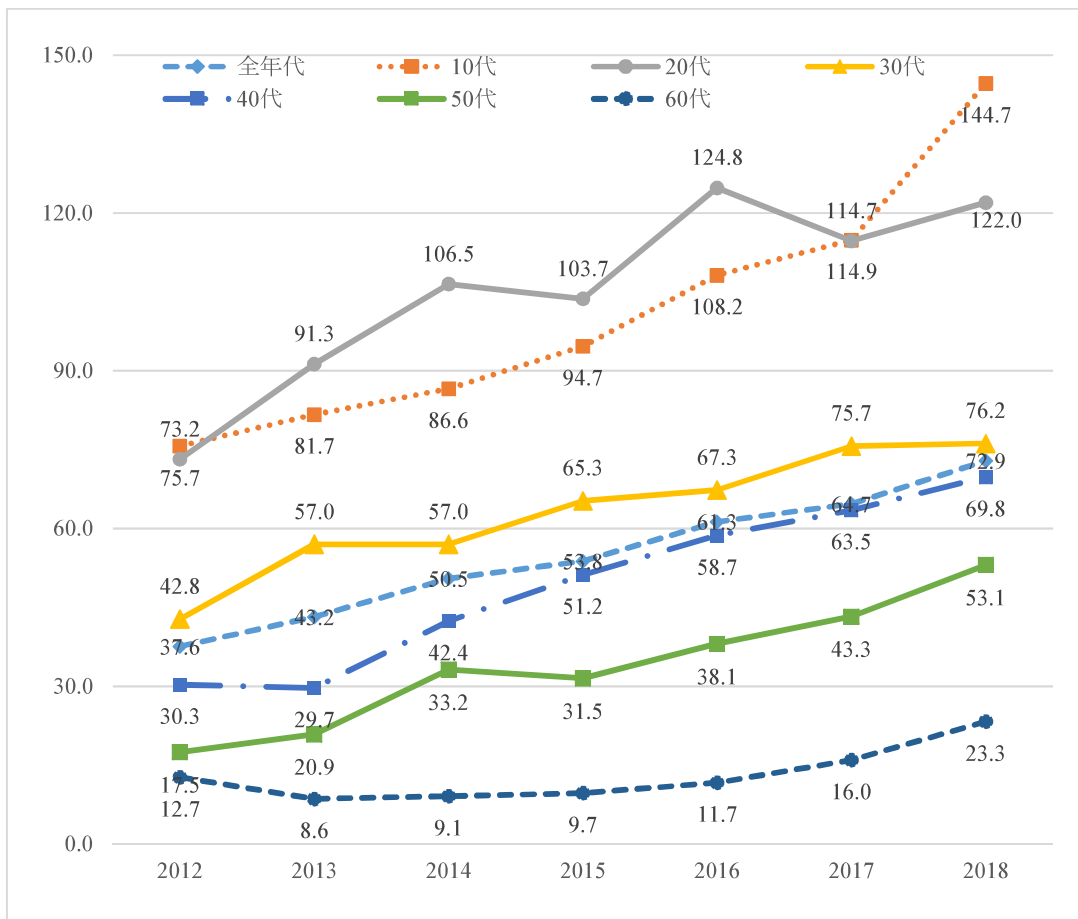
	高齢化率（％）		高齢化率の伸び （ポイント）
	令和元年	令和27年	
全国	28.4	36.8	8.4
大分県	32.9	39.3	6.4

\*内閣府「令和2年版高齢社会白書」

(2) ソーシャルメディア\*の普及

モバイル機器によるインターネット平均利用時間を見ると、若年層と高年層とでは、利用時間に大きな開きが見られるものの、いずれの年齢層においても、利用時間はおおむね増加傾向にあります。

図2 モバイル機器によるインターネット平均利用時間（平日・年代別）（全国）



\*総務省情報通信政策研究所（2019）「平成30年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」

スマートフォンの利用者が増加していくにつれ、モバイル機器によるインターネット利用において、ソーシャルメディア※、動画サイトの利用時間は大幅に増加しています。

また、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行により、新しい生活様式への移行が求められています。

新しい生活様式では、家族と過ごす時間が増える一方で、例えば地域での共食など、これまでと同様な取組が難しい状況となっています。

さらに、デジタル化の推進、暮らし方や働き方の変化に応じた食育を推進していく必要があります。

## 2 健康寿命の延伸に関する状況

生涯にわたり健康で活力ある生活を送ることができるよう「健康寿命日本一の実現」に向け、適切な運動や休養とともに、規則正しい、バランスのとれた食生活を送ることが大切です。

少子高齢化など社会情勢の変化が進む中、健康づくりや生活習慣病<sup>\*</sup>の予防を推進することで、健康寿命の延伸を実現し、子どもから高齢者まですべての県民が心豊かに生活できる活力ある社会を実現していく必要があります。

### (1) 大分県の健康寿命の状況

「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」である健康寿命は、平成25年の調査では男女とも全国平均を上回っていましたが、平成28年の調査では男性のみ全国平均を下回りました。

健康寿命日本一と大分県長期総合計画で掲げた目標達成を目指し、県民総ぐるみの健康づくりの推進が必要です。

表3 健康寿命（全国及び大分県）

		平成25年		平成28年		大分県長期総合計画 目標値 (R6)
		歳	順位	歳	順位	歳
男 性	全国	71.19	-	72.14	-	-
	大分県	<b>71.56</b>	<b>16</b>	<b>71.54</b>	<b>36</b>	<b>73.75(あと 2.21)</b>
女 性	全国	74.21	-	74.79	-	-
	大分県	<b>75.01</b>	<b>10</b>	<b>75.38</b>	<b>12</b>	<b>77.03(あと 1.65)</b>

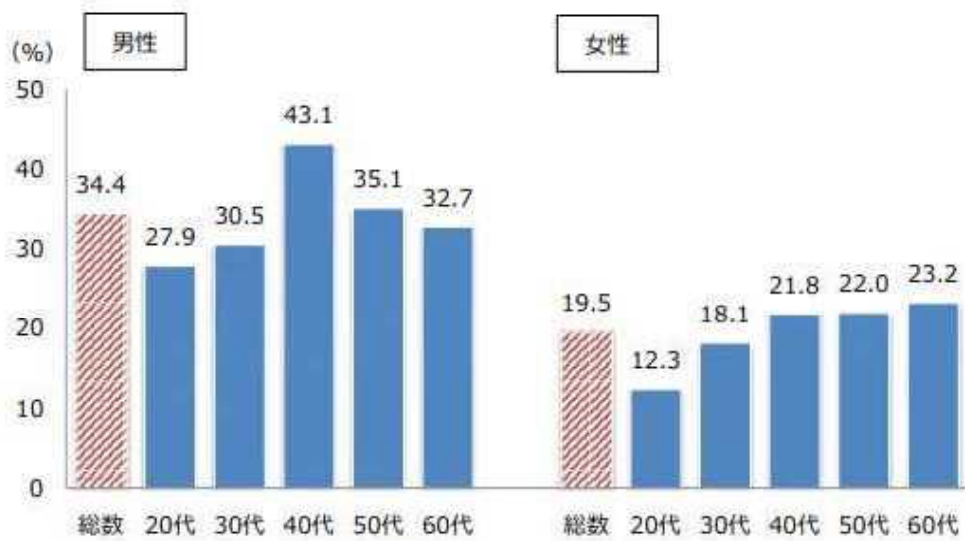
\*厚生労働科学研究「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」

### (2) 肥満 (BMI<sup>\*</sup>=25以上) とやせ (BMI<sup>\*</sup>=18.5未満) の状況

肥満は、糖尿病などの生活習慣病<sup>\*</sup>の原因になります。特に内臓脂肪の蓄積が問題となっており、メタボリックシンドローム対策が重要となっています。

平成28年の調査では、大分県の成人男性の約3割が肥満であり、40代では4割以上が肥満という結果になっています。

図3 肥満者の割合（大分県）（単位：％）



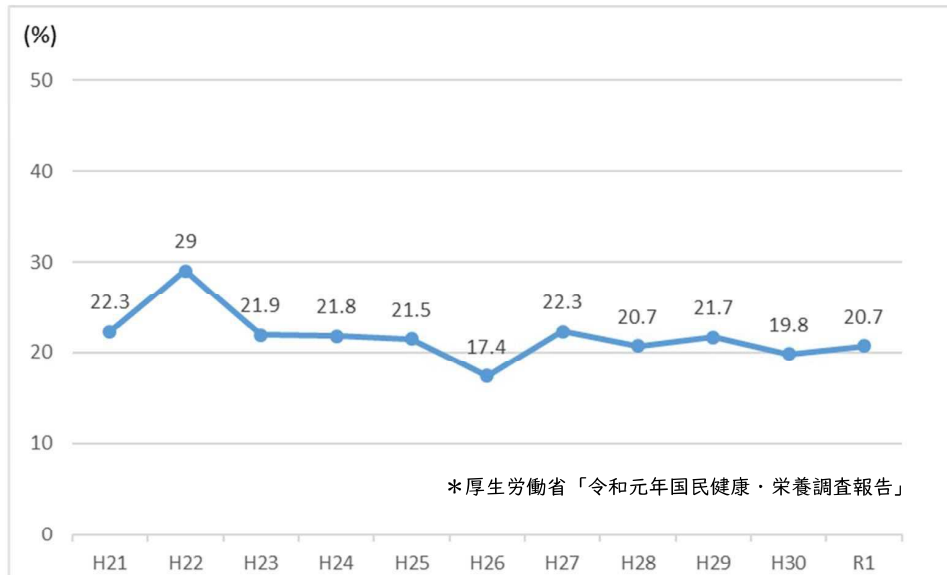
\*大分県「県民健康意識行動調査報告（平成29年3月）」

一方、若い女性は、そう身願望などからやせの者の割合が増加し、妊娠・出産や、骨粗鬆症など健康への影響が懸念されています。

また、高齢者の低栄養によるやせへの対策も必要となっています。

なお、厚生労働省の調査によると、20代女性の約2割はやせに該当します。

図4 20代女性のやせの割合の年次推移（全国）（単位：％）



\*厚生労働省「令和元年国民健康・栄養調査報告」

\*厚生労働省「令和元年国民健康・栄養調査報告」

### 3 栄養・食生活の現状

健康的な生活を送るためには、1日3度の食事を規則正しくとることが重要です。規則正しい食事は、望ましい生活習慣を形成します。

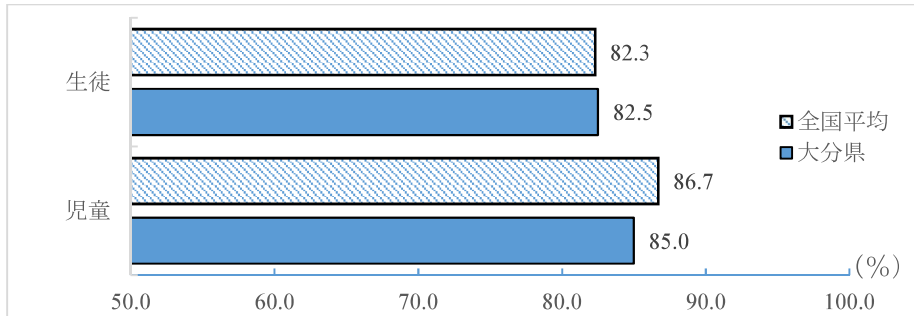
#### (1) 朝食摂取状況

朝食には、からだを目覚めさせる、生活のリズムをつくる、1日の活力の源となるエネルギーを補給する、排便の習慣ができる、体脂肪の蓄積を防ぎ肥満を防ぐ、などの役割があります。

しかしながら、朝食を毎日食べる県内の児童の割合は、全国平均に比べ、低くなっています。

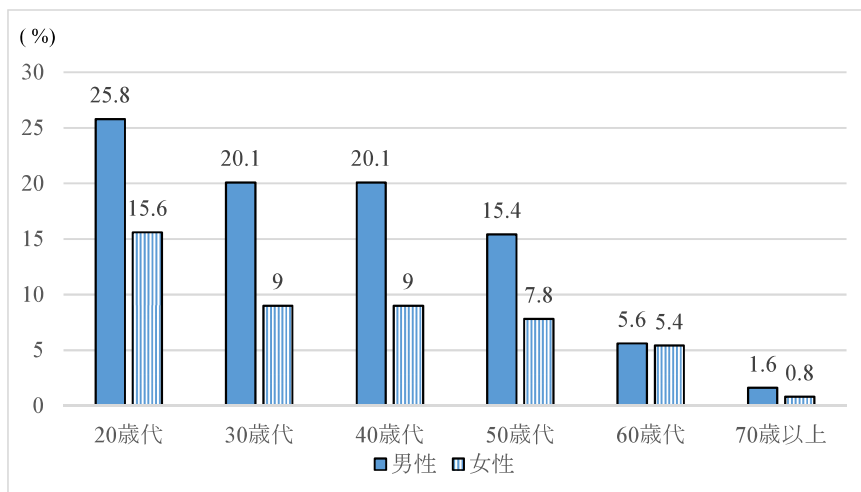
また、大分県、全国ともに男性の20歳代の欠食率が高くなっています。

図5 朝食を毎日食べる児童・生徒の割合（全国及び大分県）



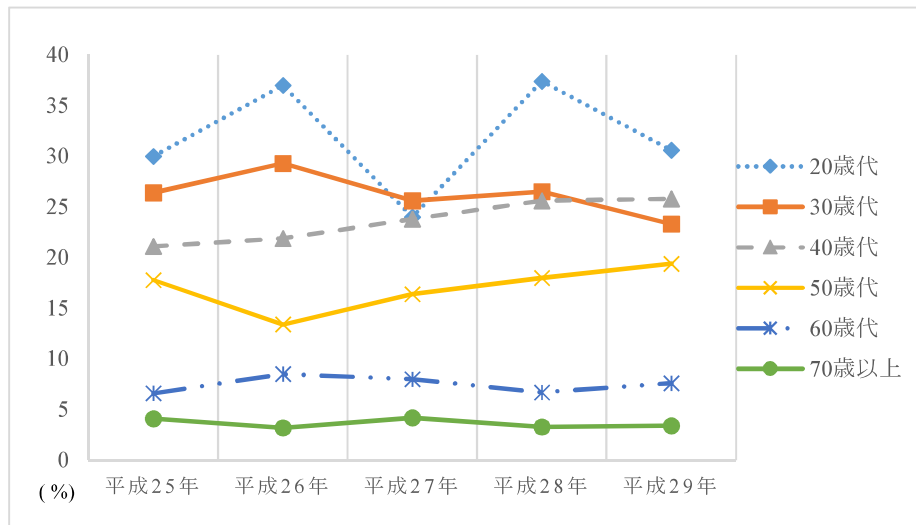
\*文部科学省「令和元年度全国学力・学習状況調査」

図6 朝食の欠食の状況（大分県）（単位：％）



\*大分県「第二次生涯健康県おおいた21 中間評価」

図7 男性の朝食欠食率の年次推移（全国）（単位：％）



\*厚生労働省「平成29年国民健康・栄養調査報告」

## (2) 外食・中食の頻度

外食・中食（市販の弁当やそう菜のような家庭外で調理・加工されたものを、家庭や職場などに持ち帰って、そのまま食べられる日持ちのしない食品）が広く普及しています。

外食・中食の利用頻度が週3日以上の方は野菜摂取量が少なく、男性では肥満者の割合が高いことがわかります。

表4 男性の体格指数（BMI<sup>※</sup>）と外食・中食の利用頻度（大分県）

	BMI <sup>※</sup> 25.0 未満		BMI <sup>※</sup> 25.0 以上	
	人数（人）	割合（％）	人数（人）	割合（％）
週3日以上	225	60.0	150	40.0
週2日以下	865	67.3	420	32.7

\*大分県「県民健康意識行動調査報告（平成29年3月）」

表5 外食・中食の利用頻度と野菜摂取量に関する状況（大分県）

	週3日以上			週2日以下		
	人数	平均値（g）	標準誤差	人数	平均値（g）	標準誤差
男性	375	244.8	8.7	1,285	289.8	4.7
女性	195	251.6	11.7	1,724	298.5	3.9

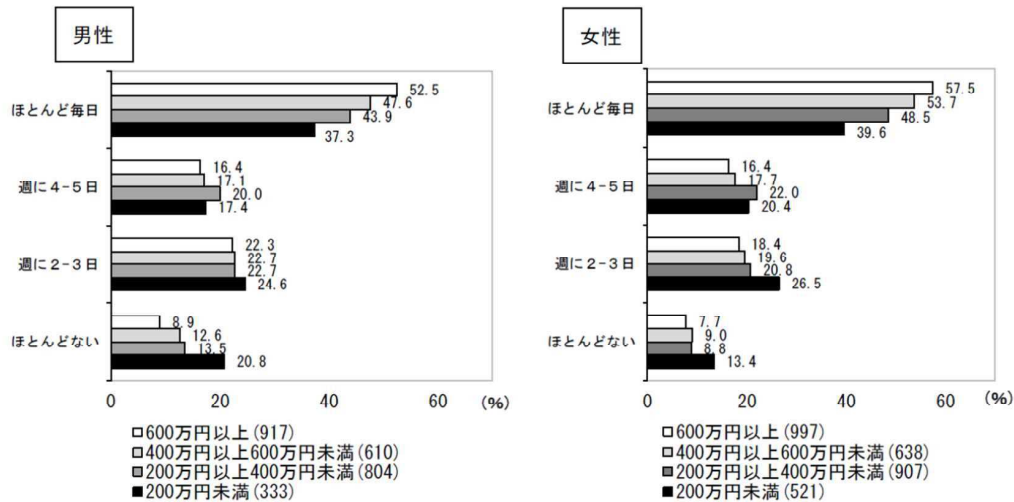
\*大分県「県民健康意識行動調査報告（平成29年3月）」

(3) 所得と食生活に関する状況

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べる頻度が「ほとんど毎日」と回答した人の割合は、世帯の所得が600万円以上の世帯員に比較して、男女ともに200万円未満の世帯員で低くなっています。

また、「ほとんどない」と回答した人の割合は、世帯の所得が600万円以上の世帯員に比較して、男女ともに200万円未満の世帯員で高くなっています。

図8 所得と主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の頻度の状況（全国）

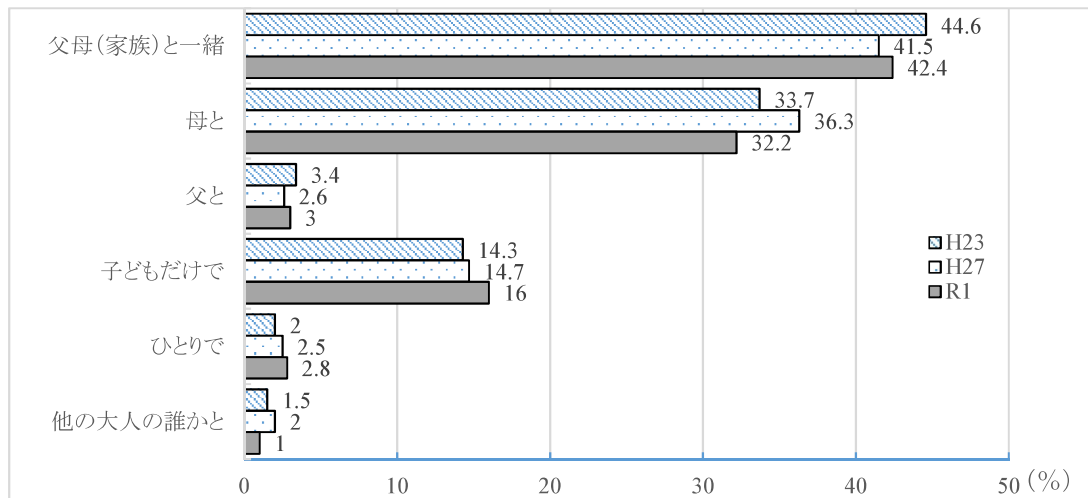


\*厚生労働省「平成30年国民健康・栄養調査報告」

(4) 食事を一緒に食べる相手

朝食を父母（家族）と一緒に食べている子どもの割合は令和元年度で42.4%で、平成27年度より0.9ポイント増加しています。子どもだけで朝食を食べているのは16.0%となっています。

図9 子どもが朝食を一緒に食べる相手の割合（大分県）



\*大分県「令和元年度 子ども・子育て県民意識調査報告書」



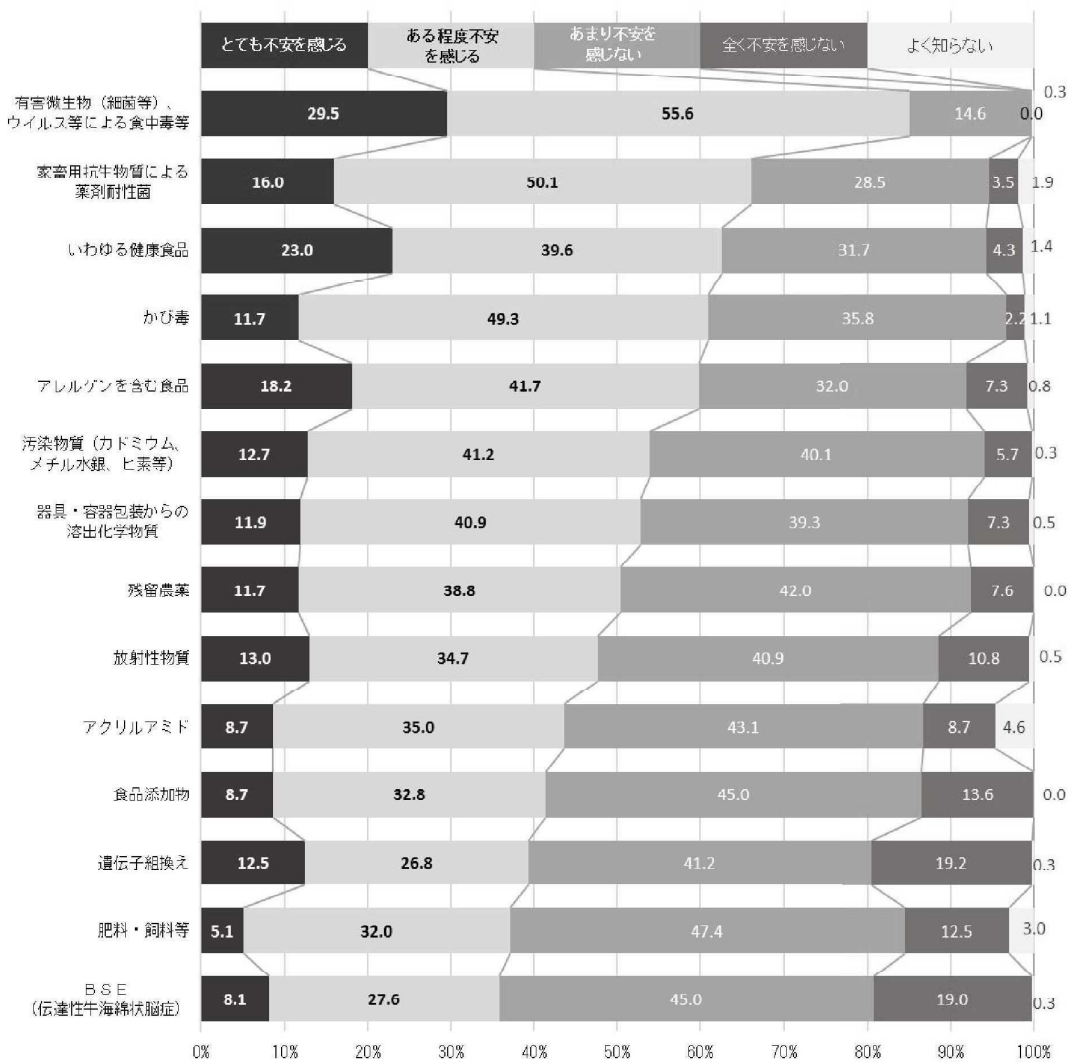
## 4 食の安全・安心

「食」について消費者として関心をもつとともに、正しく理解することが必要です。

### (1) 食の安全

食品安全モニター\*を対象とした調査によると、食品安全については「とても不安を感じる」が16.5%、「ある程度不安を感じる」が42.8%で、合わせて59.3%が不安を感じています。食品の安全性の観点から感じているハザードごとの不安を見ると「有害微生物（細菌等）、ウイルス等」で不安を感じる人の割合が85.1%と高くなっています。

図10 食品の安全性の観点から感じているハザードごとの不安の程度（全）



※「とても不安を感じる」「ある程度不安を感じる」の合計が高い順に並べたグラフにしている。

\*食品安全委員会「食品安全モニター課題報告『食品の安全性に関する意識等について』（令和2年2月）」

## (2) 食の安心

平成27年4月に、食品を摂取する際の安全性や消費者の自主的かつ合理的な食品選択の機会を確保するため、食品衛生法、JAS法、健康増進法の3つの法律の食品表示に係る規定を一元化した食品表示法が施行されました。

食品表示は、消費者と食品をつなぐ重要な役割を担っており、事業者の適正表示とあわせて、消費者の正しい知識と理解が必要です。

## 5 食の生産・消費

本県は、標高0mから1,000m近くまで耕地が分布し、耕地面積の約70%が中山間地域に位置するなど起伏の多い地勢にあり、地域の立地条件を生かした多様な農業と豊かな森林資源を生かした林業が盛んに行われています。

また、広大な干潟が広がる豊前海からリアス海岸の豊後水道まで、変化に富んだ海岸地形を有しており、各地域で特色ある水産業が営まれています。

### (1) 農業の概要

農業経営体<sup>※</sup>数は総じて減少傾向にありますが、法人経営体数は増加傾向にあり、全体に占める割合も増えています。また、2ha以上の経営体割合は増加しており、経営体の規模拡大が進んでいます。

図11 農業経営体数（大分県）

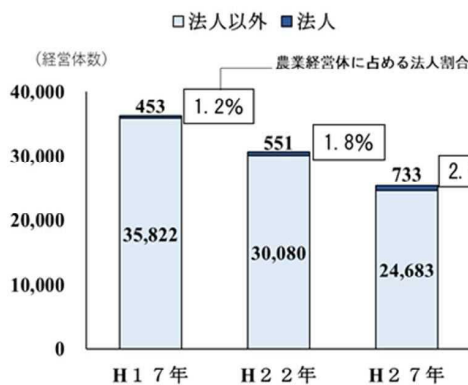
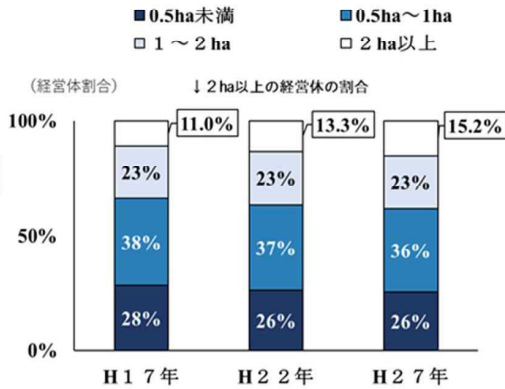


図12 経営耕地面積別の農業経営体割合（大分県）



※農林水産省「農林業センサス」

本県は主力品種の「ヒノヒカリ」をはじめとした特色のある米づくりや、味噌・醤油等地場の加工業者と結びついた麦・大豆の生産が行われています。

また、施設野菜のこねぎ・トマト・いちご、露地野菜の白ねぎ・高糖度かんしょ、柑橘類を中心とした果実、肉用牛を中心とした畜産が各地域で営まれています。

### (2) 林業の概要

森林面積は約45万3千haで県土の71%、全国の1.8%を占めており、乾しいたけの生産量は全国1位となっています。

### (3) 水産業の概要

本県の海岸線の総延長は772km（全国14位）で、クルマエビやタチウオ、アジ、サバ、イワシ類等を対象とした漁船漁業やブリ類、ヒラメ、クロマグロ、

二枚貝等の養殖業が盛んに営まれています。

また、水産加工業も盛んで、開きや丸干し、チリメン、イリコなどが生産されています。



大分県で生産される主な農林水産物

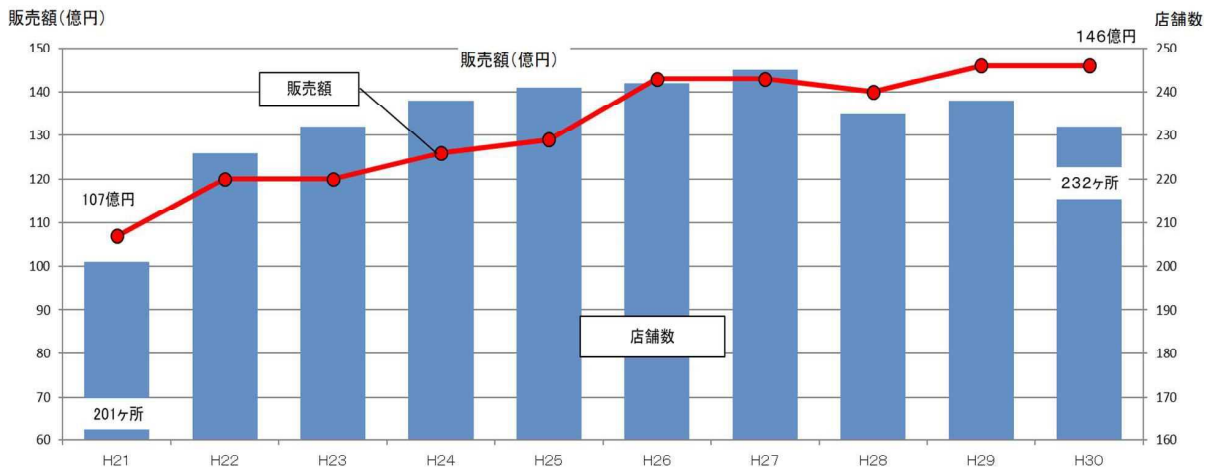
#### (4) 地産地消の取組

本県には、市町村や JA、民間団体等が運営している農林水産物直売所が各地域にあり、直売コーナーを設けたショッピングモールやスーパー等も多数存在しています。なお、平成 30 年の農林水産物直売所の店舗数は 232 店舗、総販売額は 146 億円となっています。

直売所は、生産者と消費者の交流の場であるとともに、女性・高齢者等小規模農業者や定年退職者等の活躍の場となっています。

また、直売所は県外からの来客も多く、観光資源としても農山漁村地域の活性化に重要な役割を果たしています。

図 13 直売所の販売額の推移（大分県）



\*大分県「農林水産物直売所等実態調査」（令和元年12月）

### (5) 学校給食の取組

学校給食における県産農林水産物の使用割合（重量ベース）は75.6%と高く、積極的に県内産が活用されており、米と牛乳は100%県内産です。

肉類、卵類、野菜類、果実類も5割以上県内産が活用されています。

表6 学校給食用食材使用割合（重量ベース）（大分県）

（単位：kg）

食材	総使用量	県内産	県内産活用率 （%）
米	42,235	42,235	100.0
牛乳	161,996	161,996	100.0
パン	15,326	3,686	24.0
肉類	27,177	15,957	58.7
魚介類	11,424	3,990	34.9
卵類	4,746	2,546	53.7
野菜類	95,134	49,744	52.3
果実類	9,917	6,611	66.7

\*大分県「令和元年度学校給食用食材の生産地調査集計結果」

### (6) 食品ロス<sup>\*</sup>の削減

まだ食べられるにも関わらず廃棄される食品ロス<sup>\*</sup>は、食品の生産から販売、消費等の各段階で大量に発生しており、SDGs<sup>\*</sup>にも言及されるなど、その削減が国際的な課題となっています。

国内でも年間600万+以上の食品廃棄物が発生しており、食品ロス<sup>\*</sup>を削減することは、食品の生産や廃棄処理に係るエネルギーや二酸化炭素排出の抑制など、地球環境の保全に大きく貢献するものです。

## 6 食の文化

本県には、豊かな自然環境で育まれる多彩な食とそれを活用した豊かな味わいをもつ郷土料理などの食文化があります。

県政モニターでのアンケート調査によると93%の人が大分県の郷土料理を知っており、次世代に残したい、作り方を知りたい郷土料理がある人は66%でした。知っている郷土料理及び次世代に残したい、作り方を知りたい料理としては、「だんご汁」、「やせうま」、「りゅうきゅう」、「とり天」が多くなっていました。

表7 知っている郷土料理（大分県）

(5人以上記入分)

料理名	回答者数
だんご汁	88
やせうま	61
りゅうきゅう	39
とり天	38
とり（かしわ）めし	16
ごまだしうどん	10
からあげ	9
黄飯	7
関アジ・関サバ料理	5
けんちん汁	5
きらすめし	5
ほうちょう	5

\*大分県「県政モニター「食育の推進について」（令和2年度）」

表8 次世代に残したい、作り方を知りたい郷土料理（大分県）

(5人以上記入分)

料理名	回答者数
だんご汁	33
やせうま	10
りゅうきゅう	6
とり天	5

\*大分県「県政モニター「食育の推進について」（令和2年度）」

### 豊かな味わいをもたらす“郷土料理”

大分県は、16世紀の西洋文化を取り入れた大友宗麟の時代から、多くの藩や領が入り乱れた小藩分立の江戸時代を経て、特色ある地域が形作られました。

現在は、明治以降の三度の合併を経て、18市町村となっています。  
県内の主な郷土料理

<p>北部 中津・宇佐・豊後高田</p>	<p>ぶんど合鴨飯、鴨汁、鶏のから揚げ、どじょう料理、ハモ料理、めがね菓子、けんちん、がん汁、イギス など</p>
<p>東部 国東・姫島 杵築・日出・別府</p>	<p>姫島の鯛めん、オランダ、けんちん、とり天、たこ飯、城下かかれい料理 など</p>
<p>中部 大分・由布 臼杵・津久見</p>	<p>関あじ・関さば料理、クロメ料理、ほうちょう、かしわ汁、黄飯、きらすまめし、茶台ずし、りゅうきゅう（ひゅうが丼）、臼杵のふぐ料理 など</p>
<p>県南 佐伯</p>	<p>あじ寿司、ごまだしうどん、しんちょき餅、冷や汁、あつめし、かんくろだんご など</p>
<p>豊肥 豊後大野・竹田</p>	<p>さぶろう鍋（シシ鍋）、田楽、あたま料理、酒まんじゅう、ゆでもち など</p>
<p>西部 日田・玖珠・九重</p>	<p>がめ煮、たらおさ、サバの姿ずし、鶏汁、きじ飯、あゆるか など</p>

とり天やだんご汁、やせうま、りゅうきゅうなどは、県内一円で郷土料理として食べられるようになっています。

また、醸造業や酒造業も地域に根付いて、特色ある食文化を支えています。

## 7 食育に関する意識

食育の認知度や関心度は高く、実践する人も多い傾向にあります。

県政モニターでのアンケート調査によると「食育」について、63%の人が「言葉も意味も知っている」と答えています。

また、食育に「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」人の割合は87%で、その理由としては「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」、「食生活の乱れが問題になっているから」と答えた人が多くいました。

図14 食育の認知度（大分県）

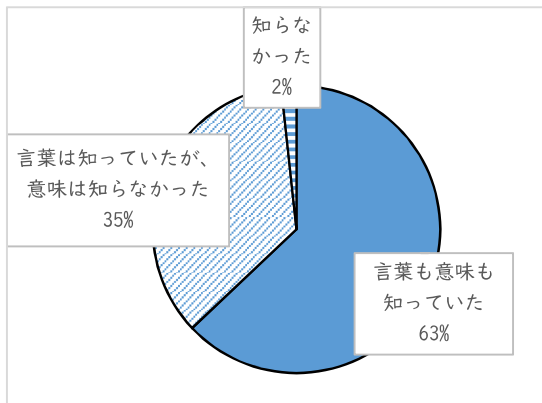
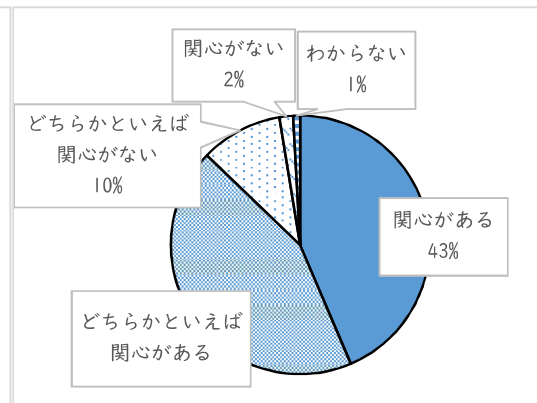
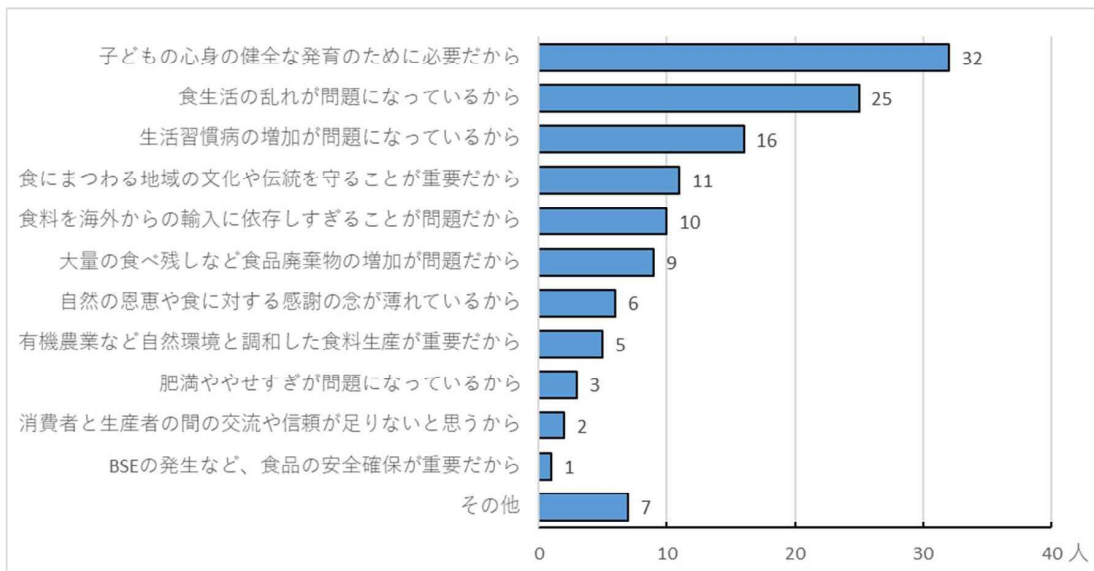


図15 食育の関心度（大分県）



\*大分県「県政モニター「食育の推進について」（令和2年度）」

図16 食育に関心がある理由（大分県）

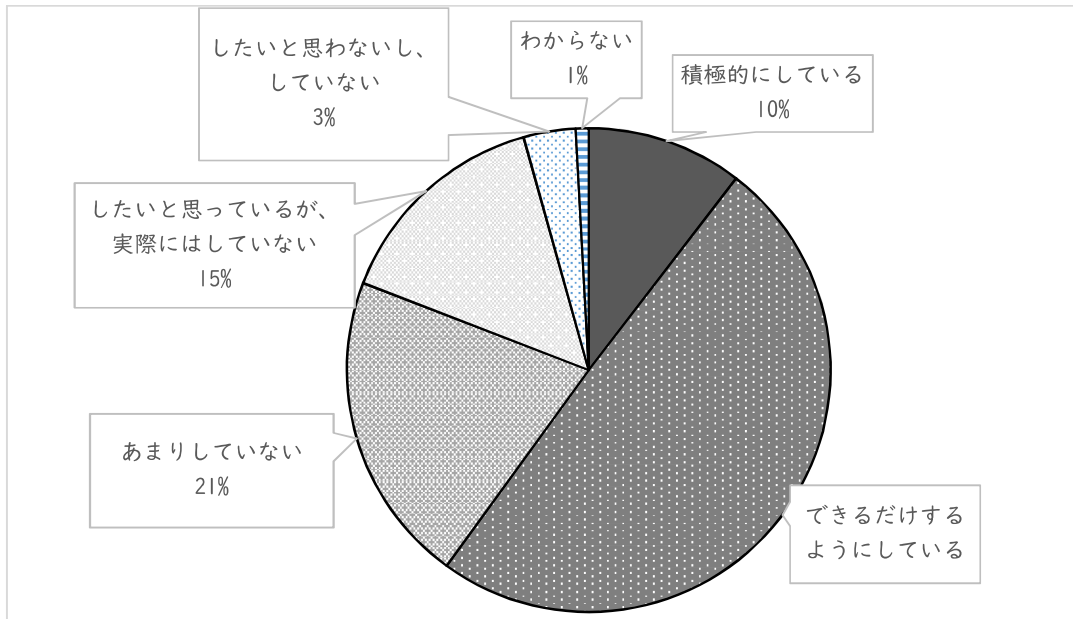


\*大分県「県政モニター「食育の推進について」（令和2年度）」



さらに、日頃から「食育」を何らかの形で実践している人は60%いる一方で、6月の「食育月間」や11月19日の「おおいた食(ごはん)の日」などの食育啓発期間については、認知している人が9.5%から19.0%しかいないことから、周知が必要です。

図17 食育を実践しているか（大分県）



\*大分県「県政モニター「食育の推進について」(令和2年度)」

表7 食育啓発期間の認知度（大分県）

啓発期間	認知している割合 (%)
食育月間 (6月)	19.0
食育の日 (毎月19日)	15.5
おおいた食(ごはん)の日 (11月19日)	9.6
おおいた食育ウィーク (11月19日の週)	10.3
家族みんなで”いただきます!”の日 (家庭の日：毎月第3日曜日)	9.5

\*大分県「県政モニター「食育の推進について」(令和2年度)」